

# 平成22年度事業報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

特定非営利活動法人 ザ・ピープル

## 1. 事業の成果

平成22年度は年度当初5つの重点目標を掲げ、事業の推進に法人全体として取り組んできた。それぞれの目標についての実施状況と成果についてまとめる。

● 古着リサイクル事業の地域内循環に向けたビジネス性の確立。店舗収益性の更なる向上  
厚生労働省による社会貢献活動支援事業対象事業所として助成を受けつつ、店舗運営の改善に努めた。本会の本会計の基盤は古着リユース販売による事業収益により形成されていることから、店舗統括マネージャーを配置。店舗全体としての収益性の向上を図った。

また、本年度新設されたヨークタウン大原店内へ併設されたリサイクル工房が機能し、様々なリメイク品の製作・販売並びに店舗販売品などへのお直しサービスの提供を通して一定の収益を見込める状態にまで至ることができた。但し、3.11大震災の影響により、3月期の収入の落ち込みが今後影響を残すことが懸念されている。

● 福島県内および県外を視野に入れた古着リサイクル活動の広域的展開の一層の促進

(地球環境基金助

成事業)

地球環境基金による助成事業として、福島県内および県外を視野に入れ古着リサイクル活動を推進。新たに県内回収拠点として石川郡浅川町・郡山市・白河市・南相馬市・相馬市各1ヶ所の拠点を、県外回収拠点として茨城県水戸市に1ヶ所の古着回収拠点を整備したことで、古着リサイクル活動のネットワークが広範なものとなった。ネットワーク内には多種多様にわたる団体が参加しており、福祉関連団体や若者自立支援団体、子育てサポート団体、教職員の団体、地域のクリーニング店などがつながり、ネットワークが強化されることでさらに古着リサイクルの活動が促進されるものと思われる。

また、こうして繋がることのできた地域外の古着リサイクル活動実施主体を招き、「古着リサイクルの明日を考えるシンポジウム」を開催。200名を超える参加があった。その中には、連携の意義を再確認すると共に、それぞれの団体の抱える課題の共有を図ることができた。

● 古着を素材とするリサイクル手法の新たな展開 工房ピープルにおける商品化の推進

(福島県緊急雇用創出基金事業 いわき市委

託事業)

いわき市から委託を受け実施した「ファイバーリサイクル推進業務」の実施状況は、以

下の通り。

1. 反毛機（カード機・開繊機）のそれぞれについて、専門家の指導を得てその操作性の向上と製品

の高品質化を目指した。日本スライスセンター・イーダより技術専門家による指導を得て、機械周辺に飛散するワタの割合を減少させるための工夫ができるようになった。加えて、当地ではなじみの薄い反毛機全般に関する指導を東京工芸大倉橋直也氏により得た。

更に、京都工芸繊維大学木村照夫教授の指導の下、リサイクルウールワタを手芸用品以外の活用ルートに載せるため製品の高品質化に取り組んだ。そのことが引き金となり、12月からの自動車内装材用のフェルト製造事業所との反毛ワタ提供に関する協議へと結びついた。

2. 新規雇用者を中心として工房び〜ふる担当ボランティアスタッフにより店舗で販売できるリメ

イク品の開発・製作・販売を実施。工房を本会の古着販売店舗に併設させていることが功を奏し

消費者の声を取り入れながら商品としての精度を高めることが出来た。また、お直しなどリメイ

ク技術自体を商品化することも可能となった。

また、老人介護施設（社）ハートフルなこそその協力を得て、身体機能の落ちた高齢者の介護にあたって使いやすい介護衣料の開発を古着を素材として考える取り組みを実施。3回のミーティングを通して、介護現場の声を取り入れたリメイク介護衣料として、ベスト・ズボン・ひざ掛け・前掛け・ソックスなど50点以上を製作した。最終的に製品として形のまとまったものを（社）ハートフルなこそ傘下である認知症高齢者の入所型施設「わいの家」に提供し、ある程度の期間使用して今後の改善点を見出すというところまで至った。

3. 事業を広報する為のイベントとして「レッツ体感！リサイクル リメイクファッションコンテス

ト&きものサンバSHOW」を実施。（出展作品数38点／来場者数120名）

これまでのリメイクコンテストの実施状況に比べ、出展作品数は減少したが、これは小物部門を

取り止め、作品を身につけることの出来るファッション作品に限定して作品を募ったためである。

コンテスト自体はボリューム不足のきらいがあったが、アトラクションとして山口千恵子氏による古い着物からのリメイクファッションショーを加えたことで、一般市民からの応募作品とは違った豊かな発想による作品の数々が紹介されたによって来場者の多くが刺激を受けていた。総じて来場者の評価は高かった。翌日のきものリメイク教室に於

いても、山口氏による指導によって古い羽織を素材とするジャケット製作に参加者が熱心に取り組んだ。

更に、「ザ・ピープル リメイク&手づくりフェア」の実施を計画したが、3月11日の震災により会場の小名浜潮目交流館が使用不能となったため事業を中止せざるを得なかった。

● 台湾との連携による NEO WOOL プロジェクトの推進

台湾との協議は販売価格の設定等に関する調整が不調に終わり頓挫。

● 次世代の人材育成

いわき市委託事業ならびに厚生労働省社会貢献活動事業所支援事業の助成により、20歳の若いスタッフを雇用することができたことにより、特に本会の事務局運営機能は各段に向上した。また、古着リサイクル業務においても、いわき若者サポートセンターとの連携による事業実施が効果的に作用した。しかし、3.11 東日本大震災の影響によりこの連携は継続困難となった。

2. 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に関する事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
古着リサイクル関連事業	古着回収・仕分け等リサイクル基盤事業	常時	いわき市内各リサイクルボックス いわき市内湯本・小名浜仕分け場	6名×20日×12月	いわき市民	1,342,860
	アクアマリンパークフリーマーケット管理運営	4月18日 4月25日※ 5月16日 6月20日 7月18日 8月22日 9月26日 10月24日	いわき市内アクアマリンパーク ※タマホームいわき店	5名×6回	一般市民 観光客	0

	エコウルリサイクル事業(地球環境基金助成事業を含む)	発送： 5月18日 6月18日 7月27日 8月26日 9月21日 10月20日 11月25日 12月15日 1月20日 2月25日 地球環境基金 助成事業： 5月1日～3月 31日	いわき市小名浜志賀倉庫(発送準備)福島県内各団体・各施設(広報活動)	発送：25名×10回 県内向け 広報活動：4名	いわき市民 福島市民 田村市民及 び田村郡民 須賀川市民 郡山市民 相馬市民 二本松市民	3,296,465
	常設・臨時バザー出店事業	常時	いわき市内PCC各店・イベント会場	54名	いわき市民	4,956,792
	いわき市委託事業	5月～3月	工房ピープル他	8名	いわき市民	7,794,000
在宅障がい者自立支援事業	バザー用古着・ウエス材提供事業	常時	いわき市内湯本・小名浜仕分場	6名	いわき市内障がい者関連施設	0
海外生活支援・海外教育支援事業	タイにおける支援事業	1月21～28日	タイ国ナーン県	1名	タイ国少数民族	515,800
情報発信事業	会報発行 HP管理 いわき市産学官 ネットワーク協 会出展助成事 業を含む	4・6・10・1月 常時 12月9・10・11日	東京都江東区	4名 2名	一般市民 首都圏民	861,538

ワークショップ・講演会・市民啓発事業	ワークショップ・講演会事業 福島県環境センター委託「廃棄物学習の環づくり事業」	廃棄物学習の環づくり事業:20回実施	まちづくりステーション小名浜 他	3名	福島県民	0
ボランティア活動体験・研修受入れ事業	中高生ボランティア体験受入れ		いわき市内小名浜仕分け場 他	30名	いわき市内 中学・高校生 県内外	0
関係団体との交流・連携・協力事業	いわき市民間国際交流・協力団体連絡会事務局業務	常時	事務所	2名	いわき市内 国際交流・協力関係団体	0
その他この法人の目的を達成するために必要な事業	東日本大震災関連事業	3月11日以降	事務所 市内避難所	4名	東日本大震災被災者	180,217

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(円)
会員研修会・研修旅行の開催	研修会	12月5日	神奈川県相模原市	4名	一般市民・ボランティアスタッフ	385,135
	創立20周年記念交流会	2月26日	カルチェドシャンブリアン	18名		
海外支援事業関連寄付	いわき塩チョコレート販売による寄付	随時	新舞子ハイツ マリントワース スカイストア	0名	海外支援事業対象者	0